

# HIO YOG

## 教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所  
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号  
(本願寺神戸別院内)  
電話 神戸(078)341-5949(代)  
【編集】教区基推委広報部

2011.12 176号



熱心な講義が行われた(牧野桂一氏)

その後、まことの保育の精神を具現化するにはどうすればよいか、園の実践をどの様にして行けば良いのかを考えていく、ということに興味として研修は進められた。講義の後は赤井秀顯氏(教区保育連盟理事長/パドマ保育園園長)の挨拶にて、会の締めくくりとなった。

保育士の橋本亜依さん、猪之又さやかさんは「研修で聞いたことを取り入れて、園での子ども達に対する接し方を考えていきたい。今後の研修会にも引き続き参加したい」と話した。

また、「まことの保育」という言葉は聞いていたが、具体的なものが見えていなかったため、どの様に園の職員に伝えるのが難しかった。今回の研修を受けて、どのような保育士、保育所を目指して行けばいいのかと、まことの保育の姿が少し見えってきた。今後も可能な限り職員と共に参加したい」とまあや学園の西中士朗さん。

多紀組専福寺 松島法城

十二月十日、別院にて『まことの保育推進者研修会』(主催/兵庫教区保育連盟)が開催された。本研修会は、全四回開催の連続研修会であり、

今後、一月、二月、三月と、別院を会場に連続して開催される。第一回目の研修となった今回は、約六十名の参加を頂き、参加者は熱心にまことの保育についての学びを深めた。会は重誓偲のお勤めの後、堀良尚氏(まあや学園学園長)の挨拶にて始まり、牧野桂一氏(筑紫

### まことの保育実現にむけて 保育連盟連続研修

女学園大学日本語・日本文学科教授)を講師に迎えて、まことの保育の理念と実践を中心に研修が行われた。



大阪と京都の中間に枚方という所があり、ここで今ではめずらしい事ではありませんが、昭和の初期よりつい数年前迄毎年「ひらかた菊人形展」が開催され、多くの人を楽しませていました。◆ここで国民的作家と言われた吉川英治さんが「新平家物語」を発表し、これがその年のテーマとなり、作家の吉川氏が招待され、その見事な菊の花なり、菊人形に感動し、その菊作りの人にプレゼントしたのが、あの有名な「菊づくりに菊の盛りは、影の人」と詠まれた句でした◆私達は、菊の花の美しさのみに目をとめ感嘆しますが、この菊の花を育てるのには大変な苦勞がある事に気付かないものです◆日頃無懺無愧の日暮しの私が、時にはご法座にお参りをし、お念仏申せるのは、私が立派なので無く、久遠の昔から私をお育て下さり、お念仏申させる身にさせて下さったみ仏様のお慈悲のお計らいによるものと味あはせて頂きたいものです。

## 教区だより 1月・2月

### 1月

1(日) 神戸別院元旦会	7:00
15(日) 常例法座(西田智教師 播磨東組 16日まで)	13:30
17(火) 阪神淡路大震災物故者総追悼法要	13:30
〃 いのちを考える研修会(高砂春美氏)	14:45
18(水) 佛華研修会	13:00
20(金) 別院仏婦報恩講(滝口隆誠 別院輪番)	13:30
21(土) まことの保育研修会(連続研修)	
24(火) 聖典研鑽会 勉強会	13:30
25(水) 十方会	14:00
26(木) 第2回連研のための研究会	13:00
〃 群萌会	18:00
28(土) 神戸市仏教会連合会研修会	13:00
〃 神戸中組報恩の集い	13:00

### 2月

2(木) 第10回布教大会	終日
4(土) 第一土曜仏教講座	13:30
7(火) 別院仏婦定例法座	13:30
8(水) 第3連区青年布教使研修会(9日まで)	
12(日) 連研履修者研修会	10:30
15(水) 仏婦コース練習会	10:00
〃 常例法座(16日まで)	13:30
21(火) 平成23年度布教使研修会	13:00
23(木) 教区会議員研修会(24日まで)鹿児島	
25(土) まことの保育研修会(連続研修)	13:00
26(日) 仏社単位会長・寺院代表研修会	10:30

### 大遠忌法要 後期終わる

九月より始まった親鸞聖人七五〇回大遠忌法要の後期が、十一月をもって終了した。御正當は二〇一二年一月九日(十六日に修行される。

後期参拝の組は次の通り  
【九月】阪神東組四班◆網干組四班◆掛龍東組二年僧侶の会◆阪神東組五班◆赤穂南組◆養父組二班◆朝来組◆北摂組二班

◆高砂組三班◆阪神東組八班◆神戸別院◆出石門徒会◆氷上西組南照寺◆掛龍西組◆網干組◆阪神西組◆加古川組二班◆新宮組潮音寺◆赤穂北組一班◆長島愛生園  
【十月】赤穂北組二班◆岡山北組◆城崎組徳證寺◆佐用組◆播磨東組◆神崎組◆姫路中組二班◆青年僧侶の会◆阪神東組五班◆加古川組南宗寺◆神戸西組二班◆岡山南組浄

### 阪神・淡路大震災 物故者総追悼法要

1・17「いのち」の研修会  
一月十七日(火)午後二時三十分より  
於：神戸別院

講師：高砂春美氏  
(兵庫県災害教養専門ボランティアコーディネーター)

あなたには、忘れられない目がありますか。  
私には、そっと手を合わせる目があります。

1.17「いのち」を考える研修会  
とき 2012年1月17日(火)  
午後1時30分 阪神・淡路大震災物故者総追悼法要  
午後2時45分 自然災害と私たちの生活 高砂春美氏  
ところ 本願寺神戸別院  
主催 浄土真宗本願寺派・兵庫教区・本願寺神戸別院

義援金を頂きました  
総額千八百五十九万五千二百六十三円

次の方より義援金を頂きました。▽出石組一万五千九百三十二円  
※今回、支援金の入金はございませんでした。  
教区では東日本大震災の支援金・義援金の募集を引き続きおこなっております。  
【受付口座番号】郵便振替 01140・9・6231【加入者名】兵庫教区教務所  
※通信欄に必ず、支援金か義援金かをご記入ください。

敬 弔  
左記の方がご逝去されましたので謹んで敬弔の意を表します

山崎美代子(出石組正福寺前坊守) 平成二十三年十一月九日九十歳  
堀川直行(網干組法専寺前住職) 平成二十三年十一月十日七十八歳  
菊川秀乘(神戸東組浄称寺前住職) 平成二十三年十一月十二日七十九歳  
秋山 泰(神崎組順教寺前坊守) 平成二十三年十一月十六日八十八歳  
堀川宣裕(城崎組本誓寺住職) 平成二十三年十二月三日六十四歳  
秦 教子(阪神東組圓融寺前坊守) 平成二十三年十二月五日八十二歳

十二月九日現在  
【敬略略】

### お知らせ

年末・年始の教務所・別院の休みは、十二月二十八日(水)～一月七日(土)まで。※除夜会(三十一日十七時)と元旦会(一日朝七時)はお勤め致します。

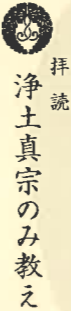
# 不安の人生に灯火が

## 講師団・御同朋の研修会開かれる

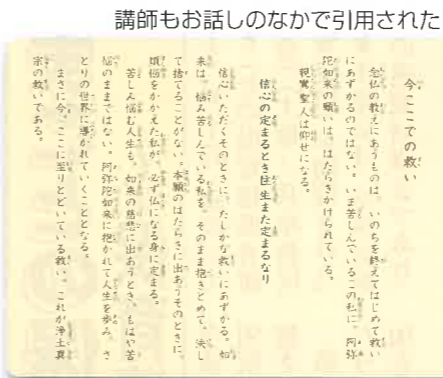
十一月三十日、別院にて『第二回兵庫教区講師団・御同朋の研修会』が開かれた。

本研修会は教区教学テーマ「現生正定聚」を中心に現生正定聚講師団の研鑽を深めること、そして僧侶・門信徒がともに、現生正定聚の味わいを深める事を目的に行われるものである。

午前は、講師団を対象とした講師団研修会が、心正因「称名報恩」の教えであると言つても良いと思つています。信心のところに仏因が円満している。だからその時点で往生は間違いない、退転することはない、正定聚に住する。あるいは撰取不捨の光明にであつて、決して捨てられない訳でありますから、この時点でもう退転することは無い。



浄土真宗のみ教え



「浄土真宗の救い、それは往生成仏であります。しかしそれだけではなく、現生に正定聚に住する。そしてまた、正定と滅度の分在はつきり示していくのが浄土真宗の教えとして大切なことです」

「浄土真宗の救い、それは往生成仏であります。しかしそれだけではなく、現生に正定聚に住する。そしてまた、正定と滅度の分在はつきり示していくのが浄土真宗の教えとして大切なことです」

「浄土真宗の救い、それは往生成仏であります。しかしそれだけではなく、現生に正定聚に住する。そしてまた、正定と滅度の分在はつきり示していくのが浄土真宗の教えとして大切なことです」

### 正定聚の救い

「煩惱を具足せる凡夫人、仏願力によりて信を獲得す。この人はすなわち凡数の撰にあらざり、これは人中の分陀利華なり。(入出二門偈)」

「私達は煩惱を具足している凡夫であります。願力によって他力の信心、仏因が円満した信心を獲得することが出来る。」

この人は、凡夫でありながら凡夫でない、そういう一面もあるんだ、というのが親鸞聖人の正定の考え方でもあると、言つていいと思つています」

「苦しむ悩む人生も、如来の慈悲に出あうとき、もはや苦悩のままではない。阿弥陀如来に抱かれて人生を歩み、さとりの世界に導かれていくこととなる。まさに今、ここに至りといっている救い、これが浄土真宗の救い、(拝読浄土真宗のみ教え)今ここの救い」

「正定聚の救いについて言つと、苦しみが全て無くなつて喜び一杯になる、こういう方もおられるかもしれません。」

しかしやはり、苦しみの煩悩で遮断してしまふ。でも、灯火は常にそこに灯つている。視線を落とせば暗がりがある。でも目を上げればそこに阿弥陀様の灯火は常に灯つている。

御和讃に「無明常夜の灯炬なり」とあります。本當に目の前が真っ暗闇になつて、この夜が明けないんじゃないだろうか、不安に思つている気持ちの中に阿弥陀様の灯火が灯る。しかし、灯火が灯つたから部屋中が全て明るくなる、夜が明けるといふ事ではない。

「既に暁になりぬ(尊号真像銘文)」という言葉があります。暁とはまだ夜が明けたわけじゃない、明かりが見えてきた、兆しが見えてきた、そういう時間帯の事でありませう。暗闇の中に灯火が灯る、でも悲しみの縁などに、ああ、私の方で見えない様に、

「この人はすなわち凡数の撰にあらざり」凡夫であつて凡夫でない。阿弥陀様の救いに出遇わなかつたら、苦しむは苦しみのまま続いていくんだらうと思つています。

しかし、阿弥陀様の救いに出遇ふことで、もはや苦悩は苦悩のままではない。苦しむは苦しむとして残っているかもしれないが、その心の中に、あるいはその隣によるこびや暖かみがある。こうした境地に立たせていただくのが浄土真宗、現生正定聚の救いと味わうところでもあります。」

# 神戸別院報恩講

## 浄土法事撰作法勤まる

十一月二十七日から二十八日大連夜法要にそつと、神戸別院の報恩講法要が勤まった。

今年は大遠忌法要の年ということもあり、大遠忌を機縁に新たに制定された『宗祖讃仰作法(音楽法要)』が二十七日連夜法要に、『宗祖讃仰作法』が



行道が勤まりました

勤められた。二十八日の夕方、初夜法要前には帰敬式も執り行われ、別院本堂のご本尊の前で二十名の方々が受式され、新たに仏弟子としての名前、法名を頂かれた。

### 神戸別院報恩講法要 出勤の法中

- ◆ 出動法中 阪神東組安楽寺加藤学道 ◆ 阪神東組浄宗寺松蔭興明 ◆ 阪神南組瑛光寺英一 ◆ 阪神南組弘誓寺園部宗純 ◆ 阪神西組善教寺赤井法顕 ◆ 阪神北組最徳寺廣澤慶嗣 ◆ 阪神北組高原寺村上孟彦 ◆ 阪神北組勝福寺後藤善史 ◆ 阪神北組寛正寺末井明尚 ◆ 阪神北組光圓寺杉本光俊 ◆ 阪神北組光圓寺杉本和俊 ◆ 神戸東組正寿寺棘麻衣子 ◆ 神戸東組無量寺林秀光 ◆ 神戸東組西方寺藤山宣基 ◆ 神戸東組圓通寺存育英 ◆ 神戸東組妙善寺上田泰昭 ◆ 神戸東組照光寺津守秀俊 ◆ 神戸中組大願寺昇高恭弘 ◆ 神戸中組教秀寺和仁章隆 ◆ 神戸湊組光明寺田中信明 ◆ 神戸湊組善照寺建部典夫 都一成

- ◆ 神戸湊組西光寺藤井基生 ◆ 神戸湊組高松寺谷川弘頭 ◆ 神戸湊組廣福寺楠誓也 ◆ 神戸湊組教覚寺別所法宣 ◆ 神戸湊組浄榮寺小宅匡 ◆ 神戸湊組円融寺谷口裕康 ◆ 神戸湊組行願寺久堀弘道 ◆ 神戸西組光寺中村禎明 ◆ 神戸西組安楽寺藤本憲輝 ◆ 神戸西組高松寺谷川誠 ◆ 神明組眞宗寺宮里悠児 ◆ 神明組光源寺宮里哲人 ◆ 淡路組萬行寺山本龍雄 ◆ 淡路組宣徳寺藤榮行信 ◆ 播磨東組妙覚寺森田直道 ◆ 播磨東組正願寺水杉愛子 ◆ 多可組正福寺寶池龍祥 ◆ 加古川組普光寺近藤龍樹 ◆ 神戸湊組浄榮寺小宅匡 ◆ 姫路南組最勝寺八木顕宣 ◆ 姫路中組順正寺天野晃順 ◆ 網干組善徳寺望月寛 ◆ 揖龍東組西方寺堀晃洋 ◆ 揖龍西組徳行寺那波正文 ◆ 赤穂北組慈眼寺松田義量 ◆ 赤穂西組西光寺村上義通 ◆ 赤穂西組西光寺上田芳史 ◆ 多紀組専福寺松島法城 ◆ 多紀組専福寺足立定夫 ◆ 氷上西組正覚寺藤長正法 ◆ 養父組安楽寺清都一成

- 【奏楽員】阪神南組瑛光寺英一 ◆ 阪神南組弘誓寺園部宗純 ◆ 阪神西組光明寺永野要真 ◆ 阪神西組光明寺永野夏子 ◆ 神戸東組正寿寺棘麻衣子 ◆ 神戸東組円福寺松本孝雄 ◆ 神戸東組源光寺源裕樹 ◆ 神戸中組教秀寺和仁章隆 ◆ 神戸湊組尊光寺前川隆哲 ◆ 神戸湊組光明寺田中信明 ◆ 神戸湊組善照寺建部典夫 ◆ 神戸湊組浄榮寺小宅匡 ◆ 神戸湊組報雲寺仲邑雅也 ◆ 神戸西組浄行寺中村秀之 ◆ 神戸西組眞宗寺大西正雄 ◆ 神明組眞宗寺

- 宮里悠児 ◆ 高砂組西蓮寺福田智成 ◆ 姫路南組浄照寺三浦純 ◆ 姫路中組西徳寺井上英乗 ◆ 姫路西組万丈寺浅野界雄 ◆ 揖龍東組西法寺堀晃洋 ◆ 赤穂北組慈眼寺松田義量
- 【会係】神戸西組順正寺山下清之 ◆ 神明組安養寺光森龍樹 ◆ 揖龍東組源徳寺和田宏之(行政順 敬称略)
- 以上の方々にお世話になりました。また、二十七日と二十八日には、教区寺族婦人会・仏教婦人会の皆様のコラスにもご出演いただきました。



記念中啓の図案は別院でした